

21PO-am413

松山大学薬学部における寄生虫学教育

○牧 純¹, 関谷 洋志¹, 玉井 栄治¹ (¹松山大学薬学部感染症学)

【序論】松山大学薬学部の授業において、寄生虫学の教育を実施する時間の確保は決して容易でないが、出来る限り学生たちに寄生虫に関する興味と関心をもってもらえるように試みてきた経緯がある。今回更なる改善に向け発表を決意した。

【材料・方法】本学感染症学研究室では、微生物学教育において、寄生虫も扱ってきた。限られた時間内で、以下のように実施してきた。【結果・考察】1. 講義: 寄生原虫と寄生蠕虫（線虫、吸虫、条虫）の概略を教える。とりわけ病原微生物との比較を行う。すなわち、真菌類と同じく真核生物に属する寄生虫と、原核生物である細菌類との異同を明示する。2. 実習: 目黒寄生虫館（東京都目黒区）より購入した寄生虫卵および徳島大学大橋真教授より恵与された寄生虫卵の一種、日本住血吸虫卵を学生実習で確認・スケッチさせる。学生は、これを通して顕微鏡の扱いにも慣れるし重要な虫卵を認識する。3. 卒業研究: 目黒寄生虫館の見学を勧める。ここで学ぶ寄生虫の知識を、「旅行薬学・渡航薬学」に関する卒業論文の記述で役立ててもらおう。1～3で、真菌類に加え、薬学生に認識できる真核生物病原体のジャンルが広がるが、寄生原虫の標本観察も導入したい。